

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名 よくみてかこう 「しらせたいな みせたいな」

2 指導観

○本学級の児童の実態

本学級の児童は、1学期に平仮名を学習し文字をつかって書くことの第一歩を踏み出したばかりである。2学期からは漢字・片仮名の学習も始まり、覚えてたの文字をつかって「あさがおの観察記録」や「あのね日記」などの課題に意欲的に取り組む姿が見られる。

「書くこと」についての意識の実態調査からは、以下のような結果が得られた。

1 国語の中で好きなものに○を付けてください (一つ)	
①よむこと	8人
②話したり・聞いたりすること	1人
③書くこと	17人
2 あなたは文を書くことは好きですか	
だいすき…12人 すき…7人 きれい…4人 だいきらい…3人	
【だいすき・すきと答えた理由】	
かいたものを読んでもらえるのがうれしいから・・・11人	
かきたいことがたくさんあるから・・・14人	
文の作り方がわかるから・・・5人	
あとで読むのが楽しいから・・・8人	
覚えた字をつかえるから・・・9人	
話すよりも楽だから・・・8人	
【きれい・だいきらいと答えた理由】	
まちがうといやだから・・・5人	
かくことがまとまらないから・・・7人	
文の作り方がわからないから・・・2人	
書き直したり、読み返したりするのがいやだから・・・3人	
たくさんかんがえないといけないから・・・2人	
話す方が楽だから・・・0人	

調査の結果から、「書くこと」に関しての興味・関心は高く、文を書くことを好きと感じている児童が多いことが分かる。その一方で、「書くことが分からない」「間違うといや」という理由から文を書くことをに抵抗を感じている児童も少なくないことが分かる。

書き表し方の視点から見ると、「は」「を」「へ」のつかい方、促音や拗音の表記、読点のうち方などにおいてまちがいがとても多い。また、主語と述語の関係がまだ十分に理解

できていないため、意味が通じにくい文章になっていることもある。

相手意識・目的意識を持つために、主題設定の場（導入の段階）に児童が「誰に伝えたいか」という相手意識や「何のために書くか」という必要感を持たせる手だてを工夫する。さらに、児童が自分の気持ちや思いを自由に書き表すために、モデル文や絵を活用したり、書けない児童には対話を通して書く中身を深めさせるなど、個に合った支援をしていくことが必要であると考えます。

○本教材の価値

本教材「よくみてかこう しらせたいな みせたいな」は、1年生になってできるようになったことやできるようになるまでの過程を振り返り、入学前の自分のことをよく知っている人に成長した姿を写真つきの手紙で知らせようとするものである。

ここでは、まず「相手意識」をより強く持たせるため、児童にとって身近な存在であり、その成長を心から喜んでくれる相手を選ぶことに力をいれたいと考える。また、手紙に書く内容を選ぶ段階・内容を書き足す段階においても「相手が自分のことをどのように見ているか」「相手だったらどんなことを書いたら喜んでくれるか」など意識させるために、相手の写真を手元に持たせるようにワークシートを工夫する。また、実際に書き表す場面では、内容が簡素で成長の様子がうまく表現できていない例文（モデル文）を提示し、どのようにすれば相手に分かりやすく伝わる文章になるかに気づかせたい。また、内容をふくらませるために絵を描かせイメージを持ちやすいように工夫する。そして、付加修正したモデル文や絵をもとにして実際に手紙を書くことができるようにしたい。

さらに、自分自身の成長を振り返り、がんばりの過程や達成感を伝えることで書く「目的意識」も感じさせたい。それはまた、自分のこれまでの生活を振り返り、自分自身を見つめ直すきっかけにもなると考える。

○自らの考えを明確にし、書き表す力を育てるための指導のあり方

指導に当たっては、次のような支援や手立てを取り入れていく。

<自らの考えを明らかにする段階>

初めに、学級全体で入学当時の写真などをもとに1年生になってできるようになったことを振り返らせる。そして、入学前のことをもっと思い出させるために、出身が同じ幼稚園・保育園同士集まり、小グループで交流する。その中で、「前はできなかったが、今はできる」ということを出し合い、自分の成長を振り返る。出身園が同じ友達がない児童に関しては、教師があらかじめ用意していた資料をもとに関わり、話をひき出す。そして、この全体・小グループでの二段階の交流をもとに、1年生になってできるようになったことを「スマイルカード」にできるだけたくさん書き出す。その際に、自分はこんなにできるようになったという成長を実感させる。

次に、誰にこのことを伝えたいかを考えさせる。入学前の自分のことを知っている人で、最近はある機会の少ない人に知らせたらきっと喜んでくれるだろうということを話し、伝えたい相手を決める。同時に、なかなか会えない相手に分かりやすく伝えるために、「写真付きの手紙を書こう」という学習の構えをつくる。

その後、「何を伝えたら相手は一番喜んでくれるか」「自分のことをどう思っているか」

を考えさせる。その際には、伝える相手の写真を見ることで、相手への意識をより強くしイメージを持ちやすいようにする。その中で、スマイルカードの中から相手に一番伝えたい内容を理由を明らかにして決める。

<書き表す段階>

「一年生になってできるようになったこと」を文章化する段階では、まず、「○○（相手）はわたし（ぼく）のことを～（こんなふうに）おもっているでしょ？」というように、相手が自分に抱いているだろうイメージを想像させ言葉で表現させる。そして、そのようなイメージを持っている相手に自分の成長をどうやって知らせたら驚いてくれるか・喜んでくれるかを考えさせる。驚いてくれそうな例として、「写真つきお手紙」に「ひみつのとびら」をつけることを提案し、「ひみつのとびら」の中には、成長した今の自分について紹介する文章とその姿を写した写真を挿入することを確認する。この過程で児童の手紙に対する「相手を驚かせるようなおもしろい手紙を書きたい」という気持ちを強く持たせる。

次に、できるようになるまでに、どんなひみつの修行や特訓をしたのか、どのようにがんばったのかを絵に描かせ、イメージを持たせる。

さらにその絵だけでは、自分のがんばったことが伝わりにくいということに気づかせて、「ひみつの修行をもっと知ってもらうためには、どうしたらよいか」を考えさせ、ひみつの修行や特訓の部分を文章に表すことを確かめる。その際、「何をどのようにがんばったのか」を分かりやすく伝えるためには、そのときのエピソード（経験）や気持ちを書けばよいということ、モデル文通して気づかせていく。また、絵を手がかりにして、教師と対話したことや教師のコメントを生かして内容をふくらませるようにする。さらに、次時は「できるようになった今の自分」をひみつのとびらの中に書かせることをにすることを話し、清書の意欲を持たせる。

3 単元目標

- 1年生になってできるようになったことを知らせたいという目的意識を確かにし、自分の成長を喜んでくれる人に知らせたいという相手意識を持って、分かりやすい文章で表そうとすることができる。
- 伝えたい内容を吟味し、簡単な組み立てを考えながら手紙を書くことができる。

4 学習計画 全8時間（話す・聞く…3時間 書く…5時間）

		学習活動と内容	教師の支援 ※考えを明確にして書き表すための支援
一	1	1 1年生になってからの自分の成長を振り返る。 (1) 1年生になってできるようになったことを学級全体で話し合う。 (2) 小グループで交流をする。	○ 写真をもとに、入学式から今までの学校行事や学級での出来事を振り返るとともに、半年の間に自分がどれだけ成長したかに気づかせる。 ※ 出身園が同じ児童同士で集まり、入学

		<p>2 全体・小グループでの2段階の交流をもとに、1年生になってできるようになったことを「スマイルカード」に書き出す。</p>	<p>前と比べて変わったところや成長したことをお互いに出し合い、交流させる。交流ができいない児童に関しては、あらかじめ用意しておいた資料をもとに、教師が関わり、話を引き出す。</p> <p>※ できるだけたくさんスマイルカードに書き出させ、自分の成長に気づかせる。</p>
二	1	<p>1 伝えたい相手を想定し、伝える方法を考える。</p> <p>(1) 誰に伝えたら一番喜んでくれるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の先生 ・保育園の先生 ・遠くに住んでいる親戚・知人など <p>(2) (1) で考えた人たちに、どうやって知ってもらおうか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お話をしに行く ・電話をする ・手紙をかく ・写真を見せる ・ビデオを見せる <p>2 学習の見通しをもつ。</p> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>一ねんせいになって できるようになったことを しゃしんつきおてがみでしらせよう。</p> </div>	<p>※ 入学前の自分のことを知っている人で、最近あう機会が少ない人が望ましいと言っていることを話す。</p> <p>※ どのような方法で伝えたら、相手によくわかってもらえるかアイデアを出すように促す。</p> <p>※ 文だけや写真だけでは分かりにくい事から「写真つき手紙」で知らせることを確かめる。</p> <p>○ 本單元では、自分の成長を喜んでくれる相手に写真付きの手紙を書き、伝えることを知らせる。</p>
三	1	<p>1 スマイルカードをもとに、書きたいことを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 書きたいことを決める。 ○ 選んだ理由を明らかにしておく。 	<p>※ 手紙に書きたいことを決める際の視点として、次の二点を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を伝えたら相手が一番喜んでくれるのかな。 ・自分のことを相手はどう思ってくれているのかな。

			<p>※ 児童が選んだ内容が書きやすいものであるかチェックをし、そうでない場合には書きやすい内容に変更するように助言する。</p> <p>※ 相手を意識して書く内容を決めさせるために、相手の写真を見ながら考えさせる。「この人だからこそこの内容」という意識付けをさせる。</p> <p>○ 書きたい内容を選んだ理由が言えた子どもから写真にとる。</p> <p>○ 写真も自分の成長を伝える方法の一つだということを確認した上で撮影する。</p>
四	2	<p>1 相手を意識して、手紙を書く。</p> <p>(1) 相手が自分に抱いているイメージを想像して、手紙を書く。</p> <p>(2) 1年生になってがんばったことを絵に描かせる。</p> <p>(3) できるようになった今の自分について手紙を書く。</p>	<p>※ 相手の写真を見ながら、相手が自分をどのように見ているかを想像させ、相手の気持ちを推し量った内容で書き出させる。</p> <p>※ ひみつの修行や特訓をしている自分の姿を絵に描かせ、どのような努力をしたかイメージを持ちやすいようにする。</p> <p>※ 今の自分の様子をできるだけ分かりやすく書かせるためにモデル文を提示したり、実際に書いた児童の手紙を参考にするようにする。</p>
	1	<p>2 一年生になって努力したこと（「ひみつのしゅぎょう」）を詳しく知らせる手紙を書く。</p>	<p>※ 前時に描いた絵だけでは、頑張った内容が相手に伝わりにくいことに気づかせ、「ひみつのしゅぎょう特訓」の部分を書くという本時のめあてをつかませる。</p> <p>※ 絵をもとに、内容を詳しく書いたモデル文を提示し、絵からどのように内容をふくらませたらよいか考えさせ、自分の手紙に置き換えて書けるようにする。</p> <p>※ 自分なりの頑張った体験(エピソード)を入れることが大切ということに気づかせる。</p> <p>○ 次時は、ひみつのとびらの中に、今の</p>

五	1	3	手紙全文を声に出して読み返す。 ・主語と述語の関係 ・「。」のつかいかた ・「は」「を」「へ」の使い方 ・促音、拗音の使い方	自分の姿を写真とお手紙にすることや、相手によるこんでもらえるように、きれいに清書することを伝える。
		1	○ 間違いは訂正し、相手がもらって嬉しい手紙になっているか確かめる。 1 できあがった手紙を読んで交流し、お互いの手紙のいいところを話し合う。	○ 間違っているところや訂正した方がいいところを自分で見つけ、赤鉛筆で修正させる。 ○ 児童が修正したものを再度チェックし、清書をさせる。 ○ 相手が読みやすい丁寧な字で書くようにモデルを提示し、確認させる。 ○ ひとりひとり発表しお互いのいいところを見つけ合うことで、書くことの楽しさや達成感を味わうことができるように、場の設定を工夫する。 ○ 書いた手紙は、手渡しできるものは手渡しをし、相手から手紙を読んだ感想をもらえるようにする。 ○ 学年末には一年間をふり返っての「できるようになったこと」を作文にすることを伝え、次の学習への見通しを持たせる。

5 本時

平成17年10月20日（木）

6 本時の目標

- 手紙のモデル文を見て、どのようにしたら相手が喜んでくれるかを考え、自分なりの体験を入れた文章を書こうとすることができる。
- モデル文をもとに、「できるようになるまでに努力したこと」の内容をふくらませ、相手に分かりやすく伝わる文章を書くことができる。
- お話の順序や簡単な組み立てを考えながら、手紙に表すことができる。

3 本時指導の考え方

これまでに、児童は全体・小グループでの二段階の交流をふまえて、「1年生になってできるようになったこと」を自分なりに見つけだし、自分の成長を振り返るとともに、その内容を整理してきている。

そして、「どの方法で伝えたら相手に分かりやすく伝わるだろう」「どんな内容を書いたら相手は喜んでくれるだろう」「相手は自分のことをどんなふうに思っているのだろう」といったように、相手のことを意識しながら書くことを学んできている。このことによって、自分の考えをより確かなものにしてきている。

本時は、まず、前時に描いた「できるようになるまでに努力したこと（ひみつのしゅぎょう）」の絵を見せ、「この絵だけでみんなががんばったひみつの特訓のことがよく分かるかな」と問いかける。その問いから、絵だけでは頑張った内容がうまく伝わらないことに気づかせる。そして、「相手をもっと喜んだり、もっと驚いたりするように、ひみつのしゅぎょうのことを手紙に書こう」という本時学習めあてを持たせる。

次に、ひみつの特訓のことを手紙にするために、どのように書けばよいかをモデル文で提示する。モデル文では、前時の絵をもとにしてひみつの特訓のことをどのようにして書いたらよいかということ学ばせる。そして、モデル文を参考にして、実際に自分の「ひみつの特訓」について知らせる手紙を書く。その際には、前時の絵への教師のコメントを手がかりにすることや、絵をもとに教師と対話したことをヒントにしたらいということ伝える。書き表すことが難しい児童には、机間巡視の際に声をかけ、書き表す中身へのアドバイスや書き出しのきっかけをつくるようにする。

最後に、本時の振り返りとして、できあがった手紙を発表し合い、よくなったところや、工夫しているところを認め合うようにする。それと同時に、絵のみと文を添えるのでは相手への伝わり方が全く違うことに気づかせる。

検証の視点

- 相手意識を持って「ひみつの特訓」の内容をふくらし、わかりやすい文章を書くことができたか。
- モデル文を活用し、自分の体験をいれて書き表すことができたか。

8 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援※考えを明確にして書き表すための支援
1 本時のめあてを確かめる。 もっとよろこんでもらえるように、ひみつのしゅぎょうのことをおてがみにかこう。	○ 前時に描いた「できるようになるまでに努力したこと（ひみつのしゅぎょう）」の絵を見せ、絵だけでは頑張った内容がうまく伝わらないことに気づかせる。そして、「相手をもっと喜んだり、もっと驚いたりするように、ひみつの特訓のことを手紙に書こう」という本時学習めあてを持たせる。

<p>3 モデル文をもとに、自分のできるようになった過程を、様子や気持ち、わけなどを入れながら書く。</p>	<p>※ 前時の絵へのコメントを見たら、したことや気をつけたことなど、書くときに気をつけてほしいところがわかるようにしておく。</p> <p>※ 前時に描いた絵をもとに内容をふくらませるように助言する。</p> <p>※ 相手に伝わる内容かどうか、考えながら書き表すように適宜言葉がけをしながら支援する。</p> <p>※ うまく書き表せない児童には、声をかけ、対話をすることでイメージを持ちやすいようにする。</p>
<p>4 本時で書いた文章を声を出して読み返す。</p>	<p>○ 「は」「を」「へ」、主述の関係などに気をつけてかくことが出来ているか、読み返す。</p>
<p>5 本時のふりかえりをする。</p>	<p>○ もとの手紙（絵のみ）と今の手紙を比べて、本時の学習でどこがよくなったかを具体的に挙げさせ、よいところを認め合う。</p>
<p>6 次時の見通しを持つ。</p>	<p>○ 次時は、ひみつのとびらの中に、今の自分の姿を写真とお手紙にすることや、相手によるこんでもらえるように、きれいに清書する時間だと言うことを確かめる。</p>